

<p>(つづき)</p>	<p>&lt;テーマが多岐にわたる&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習期間 2 日間に中で、介護予防や地域づくり、介護相談、ケアマネジメント支援を実施している。基本・実習期間中に予定されているカンファレンスや事業への同行だが、テーマが多岐にわたり、掘り下げることができていない。</li> <li>・3 日間の包括実習で、包括全体の仕事プラス、通所介護実習をもちこむことは、至難。地域ケア会議、地域包括ケア、総合事業...仕事が年々、大きく広がっている状況であり、しっかり伝えるには、日数が少なすぎる。</li> </ul>
<p>学生・教育機関側に関する記述</p>	<p>&lt;教員の関わり方の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養成所の担当教員の看護観の押しつけが強く、個々の学生の成長のさまたげになっている印象を常々もっているが、なかなか改善にもっていけない現状で、悩んでいる。せつかく研修で学んでも活かさきれていない。</li> </ul> <p>&lt;学生の取り組み姿勢の問題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅看護論の単位は終了しているが、生活を見る視点がなかなかつかない。病院実習を基準(正しいもの)と捉えている節があり、柔軟な思考がなかなか理解出来にくい。</li> </ul>
<p>教育プランに関する記述</p>	<p>&lt;国の教育プランそのものへの疑問&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国の教育プラン根本的に疑問を感じる。何もケアできない頭でっちな新人を作っている気がする。</li> </ul>
<p>判断の保留・検討中といった記述</p>	<p>&lt;現状の方法が正しいか判断できない&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の方法が正しいか分からない。</li> </ul> <p>&lt;漠然とした課題意識&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと事業所側ができることがあると思っている。それをどう実習に組み込むかが課題</li> </ul> <p>&lt;他の方法を検討中&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の目標をあげるが、実際、体験したことを学びの考察や記録としているが、他の方法がないかと考え中。</li> <li>・効果的実習方法は常にテーマとなっている。</li> </ul>

表 44 実習指導者の準備に関する自由記述のまとめ

「困っている」もしくは「まあ困っている」と回答した事業所の自由記述	
事業所側に関する記述	<p>&lt;実習生に対する職員の少なさ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習生が多く、スタッフ数が少なく、対応が不十分な時もある。</li> <li>・スタッフが少なく、管理者が行っているため。実習生がいる間は、新規の受け入れや同行の調整をしなければならない。</li> <li>・新しいステーションでスタッフの人数、利用者数が少ないため、学生の同行が少なくなってしまう。</li> <li>・スタッフ足りない。訪問が忙しい。</li> </ul>
	<p>&lt;通常業務との兼務&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉士指導者講習受講済の職員が退職し、現在0名。通常業務を行いながら、担当者の負担大。</li> <li>・日常業務にさしさわりのあることが多く、時間を大分とられる。</li> <li>・通常業務に追われているため。</li> <li>・兼務なので、緊急訪問が重なると、指導が困難となる。</li> <li>・業務に加えての受け入れのため。</li> </ul>
	<p>&lt;職員の多忙さ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多忙にて、訪問同行スケジュールがたてにくく、準備ができない。</li> <li>・時間のない中で、準備するので大変です。</li> <li>・時間がかかる。</li> <li>・医療職の確保自体が困難。業務量が多く、実習指導の準備に時間がとれない。</li> </ul>
	<p>&lt;指導できる職員の少なさ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者になりうるスタッフの急な休みや退職があると、一人のスタッフに負担がかかる。</li> </ul>
	<p>&lt;養成研修受講の困難&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年に1人程しか養成研修に出せない。新しい情報の入手。</li> </ul>
	<p>&lt;訪問日程の調整の困難&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習期間と利用者訪問日程が、調整が難しい。自宅の訪問を受け入れて頂ける利用者が限られているので、訪問ケースの選定がむずかしい。</li> <li>・訪問を受け入れてくれる利用者に限りががあるので、なるべく多くの経験をとと思うが、できない。</li> <li>・訪問の予定がない時は、どうしよう…。</li> <li>・同行訪問の予定の組み立て。実習が続く時の利用者、同行看護師に負担にならないように配分。移動距離</li> <li>・なかなか希望にあてはまる訪問が少ない。</li> </ul>
	<p>&lt;訪問するケース選定の困難&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケース選択</li> </ul>
	<p>&lt;オリエンテーションやカンファレンスの時間の確保&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション・カンファレンスの時間の確保(訪問は同行なので支障などが)</li> </ul>
	<p>&lt;施設資料の事前作成&gt;</p>

(つづき)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 十分準備できないので、これでいいかと申し訳なさがあり、こちらのバタバタ感がつたわる気がするので、施設のオリエンテーションを資料として、作成すればよかった。</li> </ul> <p>&lt;学校数の多さ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き受けている学校数が多く、分担しているが負担が増えている。</li> </ul> <p>&lt;実習指導者の過去の職歴や資格証の写しが必要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習指導者の過去の職歴などの個人情報や資格証の写しを要求される。社会福祉士は実習指導者養成過程があり、看護師は特にないので、個人の資格証。</li> </ul>
-------	---

<職員個々の力量の違い>

- ・スタッフ個々の力量も違うので、何とも言えない。

<職員の多忙さ>

- ・準備期間はあっても、当日になると担当者に緊急の案件が入ることがある。
- ・時間がなくて、バタバタしてしまうので。
- ・事前の学生からの資料を読み込んだり、実習計画を立てる時間がない。(業務多忙)
- ・仕事が忙しく、学生に丁寧に指導する時間がない。

<実習生に対する職員の少なさ>

- ・人数に余裕がありません。
- ・ひとり人員をとられてしまう。

<通常業務との兼務>

- ・日々の業務の中での指導なので、準備に手がまわらない事がある。

<訪問するケース選定の困難>

- ・利用者の選定、移動手段など。

<訪問日程の調整の困難>

- ・実習生を受け入れるにあたり、新しい情報を入れた資料を作成している。その資料が効果的な物であるかは学校や他包括の情報を得たいと思う。訪問等、事前に職員に周知し、計画してもらおうが、日程が合わない事もある。
- ・実習生が来る時に訪問ケースがあるよう準備するが、訪問予定が見つからない時がある。
- ・利用者宅訪問の日程等、直前にならないと確定せず、が実習生が希望する内容と合致していないこともあるため。

<時期による業務の種類の違い>

- ・ステーション自体、忙しい時期や新規が多い時など、一定ではないため。

<指導者としての知識・力量の不足>

- ・指導者としての、知識が年々、薄くなりやすいため、悩む。
- ・個人の力量にまかせている。現状では経験豊富なスタッフだが、指導の質を担保する必要があるので、指導者の教育を考えていかななくてはならない。

<指導できる職員の少なさ>

- ・夜勤に入る指導者もいるので、複数の指導者が必要。
- ・本部(母体となる病院)からの依頼で大学・看護学校からの実習を受け入れているが、担当スタッフが実習指導員養成講習を受けていない。業務上なかなか困難だが、訪問看護ステーションでの実習受け入れ先が少ないことから、とりあえず受けている。(学校側もそれです承されている)現場から学びにつなげて頂ければ...と学生さんの自主制+学校側の指導員によるフォローで何とか実習が成り立っているが、現場スタッフから、もう少し提示、アドバイスできればと思うところがある。

<実習指導員養成講習を受けることの困難さ>

<p>（つづき）</p>	<p>・本部(母体となる病院)からの依頼で大学・看護学校からの実習を受け入れているが、担当スタッフが実習指導員養成講習を受けていない。業務上なかなか困難だが、訪問看護ステーションでの実習受け入れ先が少ないことから、とりあえず受けている。(学校側もそれです承されている)現場から学びにつなげて頂ければ...と学生さんの自主制+学校側の指導員によるフォローで何とか実習が成り立っているが、現場スタッフから、もう少し提示、アドバイスできればと思うところがある。</p> <p>&lt;自転車台数の不足&gt;</p> <p>・自転車台数が足りない時がある。学生へのしつけ、あいさつ等の躰が不足している。ステーションが基礎から指導することも、最近は必要だと強く感じる。</p>
<p>実習の方法や内容に関する記述</p>	<p>&lt;準備に費やす時間&gt;</p> <p>・準備には多少、時間を費やすため。</p> <p>&lt;準備をあまりしていない&gt;</p> <p>・自身、準備をあまりやっていない。というところか、困るところまで、準備をしていない。</p>
<p>学生・教育機関に関する記述</p>	<p>&lt;学生の取り組み姿勢の問題&gt;</p> <p>・実習生の質による。</p> <p>・自転車台数が足りない時がある。学生のしつけ、あいさつ等の躰が不足している。ステーションが基礎から指導することも、最近は必要だと強く感じる。</p>
<p>判断の保留・検討という記述</p>	<p>&lt;担当していないためわからない&gt;</p> <p>・実習を現在担当していないのでわからない。</p>

<既存の資料の活用>

- ・施設案内を利用して、説明を行っている。できるだけ実体験を重視している。

<準備自体の少なさ>

- ・毎月の訪問に同行していただいたり、サービス担当者会議に参加してもらったりしている。通常業務に付き添っていただくようになっているので、準備事態に手間は取っていない。ただ訪問先については各担当が検討している。
- ・普段の様子をみてもらう形なので、特に困ってはいない。
- ・内容自体はほとんど変更していない。また業務にもあまり支障はない。
- ・通常の業務を経験（実習）してもらえばよいと思うので、それほど準備しない（最小限の準備）
- ・実習受け入れが特異なことではない為。

<職員間のサポート・協力>

- ・病院で経験しているの訪問看護なので技術的な問題なく、在宅もスタッフで色々共有、向上しあっている
- ・2日間なので、マニュアル作成し、3人のスタッフで協力している。モデルやデモも準備してあるので困らない。
- ・メインの担当者が決まっているため、事前に実習期間がわかっていることから、シフトで調整している。
- ・困りごとがあっても所長はじめ、相談しながら行える為、あまり困る事はない。

<通常業務との兼務>

- ・勤務時間外の業務となる事が負担。(専任ではないため)

<訪問の合間の余裕>

- ・訪問時間の合間の余裕が比較的ある。

<実習時期と繁忙期の重なり>

- ・包括の多忙な時期に、実習日が重なり、スタッフも指導者も大変であったことあり。→次年度、日程調整し解決した。

<実習担当経験が長い>

- ・自分も指導を受けてきた立場であり、実習を担当して10年以上となる。

<教育機関での指導経験あり>

- ・大学で指導経験があり、学生のレディネスや実習目標設定や学習のねらい等について理解できる為。

<勤務予定の調整>

- ・勤務を学生実習に合わせる事が難しい。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">実習の方法や内容に関する記述</p>	<p>&lt;実習元の要望に沿った準備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習要項に沿って、準備している。</li> <li>・実習前に担当教員が来られ説明を受けているため。</li> <li>・実習プログラムに沿って実施。</li> </ul> <p>&lt;準備期間の長さ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間が少なく、大変である。</li> </ul> <p>&lt;事前の準備期間&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前準備期間あるので。</li> </ul> <p>&lt;事前の目的の把握&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に実習目的、自己プロフィール等をいただいている。</li> </ul> <p>&lt;実習期間の長さ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・期間が比較的短く、業務の調整もできているため。</li> </ul> <p>&lt;目標自体の水準が高くない&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な指導を求められていない。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学生・教育機関側に関する記述</p>	<p>&lt;学生の取り組み姿勢の問題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生にモチベーションがないと、形式的なかかわりになる。</li> </ul> <p>&lt;学生の配置人数の偏り&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2校の学校を受け入れているが、実習そのものに特に困った事はないが、時々、学生の配置人数で困ることあり。(各病棟のスタッフ人数や業務によって、配置人数にかたよりが出てしまう)</li> </ul> <p>&lt;事前の打ち合わせ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学での指導者会議にもできるだけ出席し、事前に担当教官との打ち合わせをしているので。</li> </ul> <p>&lt;実習元との連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校との連携がとれている。</li> <li>・教育機関側の教員とのコミュニケーションがうまくいっており、打ち合わせがちゃんとできているから。</li> </ul>

表 45 看護学生の実習を受け入れて良かったかの自由記述のまとめ

「良くなかった」、「あまり良くなかった」、「どちらともいえない」と回答した事業所の自由記述	
事業所にとってのメリット	<p>&lt;業務を客観的にみた意見をもらえる機会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分達の業務役割機能を見直せる客観的な意見をもらえる機会になる。</li> </ul> <p>&lt;指導がよい経験&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導することにより、自身の経験になり、良かった。</li> </ul> <p>&lt;他の実習先で学んだ情報の共有&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師、保健師の活躍の場を近くで学ぶ協力できてよかったが、他の業務量が多く負担は感じる。学生から他の実習先で学んだ情報を教えてもらえるのはよい。</li> </ul> <p>&lt;業務を見直す機会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が来ることにより、日常の看護を見直すこともでき、活性化にはつながる。できれば就職につながってほしいが、そうはならず、残念。</li> </ul> <p>&lt;学生と接することによる気分転換&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2日間誰かが、(2人)時間とられるので、忙しい時は少し困る。良かった点は、仕事で若者と接する、教育することで気分転換になる。</li> </ul>
利用者のメリット	<p>&lt;利用者の喜び&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護を卒後希望してくれればと思い、受け入れているが、訪問看護を希望する人がいない。本業の仕事が遅れてしまう。利用者さんが若い人が来ると喜ぶ。</li> </ul>
学生にとってのメリット	<p>&lt;在宅看護の理解の広がり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅看護の理解が広まり、訪問看護をやってみようという意見が聞かれるから。</li> </ul> <p>&lt;病院と地域の違いへの気づきの促進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院と地域では、やれること、できることに違いがあることだけでも理解(気づき)してもらえたらと思っている。</li> </ul> <p>&lt;地域生活・療養に関する理解の促進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターと医療(退院時)の連携がとれると地域療養についての把握や助言ができ、高齢者支援につながることを理解して頂き、今後の学生から就労に変わった時、活躍にいかしてほしい希望を伝え、発信している。</li> <li>・実習生自身が地域で生活することを実際に実習にきて体験したことで、イメージでき、実感できたのはよかったが、学校で地域についてあまり事前学習できていなかったり、実習中に当事者の方と関わる方が少ないので本当に理解できていたのか、疑問に残る部分がある。</li> </ul> <p>&lt;福祉介護に関する理解の促進&gt;</p> <p>業務体制としては兼任で行う為、担当者の負担は否定できなかった。将来的に福祉介護について学びを深めた学生が現場で活躍して下さることは望ましいと思う為。</p>

<業務を見直す機会>

- ・日常業務で気付かない点など、質問され、新しい視点も取り入れられる。
- ・自分自身の業務の見直しにもなる。自分自身が学生の時に、実習させていただいたので、若い学生さんへ貢献できるのは嬉しいです。
- ・自分たちのふりかえりになったと考えられる。
- ・自身の振り返り、看護感について考えることができた
- ・自身、スタッフ自身の振り返りや、説明したことが学生には、理解出来ないため、人に伝える事の大変さ、重要さを通じて、利用者・家族や地域に発信するときに参考になる。
- ・今年度の予定が12月。担当職員の業務振り返りと、スキルアップにつながる予想される。
- ・観察する視点が忘れていた項目が多く、思い出すきっかけになる。
- ・学生目線で気付かされることがあるので。
- ・学生さんの実習に対する意気込み、期待度を知ることができる。学校側の実習内容・カリキュラム等を知り、病棟の現役看護師とも違った視点、「若者の思考」など新しいものを取り入れられる。年齢的ギャップもあり、刺激がある。
- ・介護の視点と少し違うアプローチや、考察ができており、勉強になった。
- ・介護と看護、両方の視点を学ぶことができていたので。
- ・あらためて業務や、記録物の見直しをすることがあった。
- ・看護師とは違う視点で物事をみってくれる場合があり、参考になることも。
- ・包括の福祉育成にとって、前向きな看護学生さんの実習の様子は、自身の仕事の振り返りができるだけでなく、身がひきしまる様で、管理者としては、よい機会をいただいていると感じている。
- ・地域包括支援センターにおける保健師の役割と実際の活動について、話をしたことにより、改めて責任や役割を認識する機会となった。医療と介護の連携の難しさを伝えたことにより、今後、臨床にもどった時に在宅の視点をもったケアやスムーズな退院支援が大切だということに気づいてもらえた。小さなことだが、今後の人材育成につながると期待でき、こちらも励みになる。
- ・実習指導者が業務の再確認ができたり、学生の新鮮な意見を刺激される。スタッフ全体にも良い影響がある。
- ・指導者自身の看護の振り返りの機会にもなる。
- ・指導するにあたり、自分の業務上の役割が明確になる。業務を見直すことができる。学生が理解できたという表情が満足感につながる。達成感が得られる。
- ・後進の育成に努めることは責務である。実習生の受け入れることで相談援助自身の振り返りの機会となっている。
- ・教えることで、自分自身も振り返る。スタッフのモチベーションにつながる。
- ・学生が来ることで、自分も知識の再確認ができる。指導をすることで、学生の反応が楽しく、わかった時の表情が嬉しい。普段の業務がマンネリ化する時のリフレッシュになる。指導方法を学ぶことでスタッフの指導へ生かせる。
- ・マンネリ化しつつある業務を見直し、自分達のモチベーションにつながる。

<指導がよい経験>

- ・忙しくなるが、自らの学習につながる。
- ・指導者理解していないと伝えられないので、初心にかえられる。
- ・指導者自身の学習にもなる。
- ・スタッフは教えるので成長します。

- ・スタッフの勉強する機会にもなっている。
- ・スタッフの成長にも繋がっている。
- ・職員の学習意欲の向上につながる。訪問看護業務や制度について、オリエンテーションで説明、学生の療養者の病状等の説明や、学生の素朴な質問へ返答するので、職員の理解や行動の向上につながる。
- ・自身も勉強になります。
- ・指導にあたるスタッフも成長できる。
- ・指導する立場を通して、スタッフ教育にもなる。
- ・介護施設では学びが少ないと考えている。実習生を教えることは、自身の学びが基盤にないと教えられない。
- ・スタッフのスキルアップにもつながっていると思う。自分のケアの確認もできている。
- ・スタッフのスキル up にもつながっている。
- ・スタッフが教える事によって、自分のスキルが再確認できる。

<職員が受ける刺激>

- ・病棟スタッフも様々刺激を頂いていると思います。
- ・職員の学習意欲につながっている。
- ・刺激になるので
- ・現場のスタッフにも良い意味でも悪い意味でも、刺激になっている。新鮮なものの見方・考え方を教えてもらっています。
- ・現場としては大変だと思うが、外部の視点から見た意見を聞ける大変良い機会ととらえている。
- ・現場が少人数なので、雰囲気が変わり、良い緊張感となります。
- ・学生さんの実習に対する意気込み、期待度を知ることができる。学校側の実習内容・カリキュラム等を知り、病棟の現役看護師とも違った視点、「若者の思考」など新しいものを取り入れられる。年齢的ギャップもあり、刺激がある。
- ・介護士が中心の中で、お互いに新しい気づきがある。又、看護職の就職につながる事も期待する。
- ・スタッフの意識が多少変わり刺激にはなったのではないかと思う。
- ・スタッフのモチベーション up になっと思います。
- ・利用者さん達は、楽しそうに会話されており、ありがたいです。外からの風を施設に入れてくれるので、職員は接遇など、ふり返る良い機会になっています。
- ・優秀な学生の言語能力の高さがよくわかったから。
- ・職員の専門職としての意識が高まった。
- ・職員の刺激になるような新鮮な発想が聞かれる。
- ・職員の学習意欲の向上につながる。訪問看護業務や制度について、オリエンテーションで説明、学生の療養者の病状等の説明や、学生の素朴な質問へ返答するので、職員の理解や行動の向上につながる。
- ・住民の方々に近い目線での質問や意見をいただくことができるので、参考になります。
- ・実習指導者が業務の再確認ができたり、学生の新鮮な意見を刺激される。スタッフ全体にも良い影響がある。
- ・教えることで、自分自身も振り返る。スタッフのモチベーションにつながる。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">事業所にとつてのメリット(つづき)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生さんの若さや、緊張が利用者や家族だけでなく、スタッフにも新鮮であったりする。</li> <li>・ 学生さんから、学ばせてもらうことが多いので。</li> <li>・ マンネリ化しつつある業務を見直し、自分達のモチベーションにつながる。</li> <li>・ スタッフ側も新しい視点(学生さんならではの視点)に触れ、勉強になる。また、利用者さんの意外な社会性(ex.学生さんの前ではキリッとする、気を遣う等)を見る時もあり、在宅・訪看のアセスメントの上でも、参考になる。</li> <li>・ スタッフの刺激になる。</li> <li>・ スタッフのよい刺激となる。学生の素直な考えを聞き、気づかされることがある。</li> <li>・ 新しい視点をあたえてくれることがあります。</li> </ul> <p>&lt;学生の率直な意見を聞く機会になる&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 率直な感想や意見を聞く事ができる。(学生より)</li> </ul> <p>&lt;学生に伝える努力の重要性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自身、スタッフ自身の振り返りや、説明したことが学生には、理解出来ないため、人に伝える事の大変さ、重要さを通じて、利用者・家族や地域に発信するときに参考になる。</li> </ul> <p>&lt;学生の成長による達成感&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導するにあたり、自分の業務上の役割が明確になる。業務を見直すことができる。学生が理解できたという表情が満足感につながり達成感が得られる。</li> <li>・ 学生が来ることで、自分も知識の再確認ができる。指導をすることで、学生の反応が楽しく、わかった時の表情が嬉しい。普段の業務がマンネリ化する時のリフレッシュになる。指導方法を学ぶことでスタッフの指導へ生かせる。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">利用者にとつてのメリット</p>	<p>&lt;利用者が受ける刺激&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業所利用者の刺激になっています。</li> <li>・ 学生さんの若さや、緊張が利用者や家族だけでなく、スタッフにも新鮮であったりする。</li> <li>・ フロア全体・利用者さんの活性化をはかれる。</li> <li>・ 利用者さんによっては、学生さんとのふれ合いが良い刺激となる時がある。</li> </ul> <p>&lt;利用者が実習生に教える機会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援者以外の人と話す機会になる。利用者が実習生に作業を教えるなどの場ができる。</li> </ul> <p>&lt;利用者の喜び&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者も喜んでいるので。</li> <li>・ 利用者は好評である。</li> <li>・ 普段見られない利用者の様子が見られた。利用者もゆっくり話をしてもらえ、喜んでいる。</li> <li>・ 通所されているメンバーにとって、新しい方がいらっしゃるのは良い刺激になり、作業等のやり方を教えることでコミュニケーションがとれる。</li> <li>・ 利用者さん達は、楽しそうに会話されており、ありがたいです。外からの風を施設に入れてくれるので、職員は接遇など、ふり返る良い機会になっています。</li> <li>・ 通所支援施設に通ってくる利用者さんにとって、良い意味での刺激になり、良い。</li> </ul>

<p>地域医療や医療全体にとってのメリット</p>	<p>&lt;就職へつながることへの期待&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護士が中心の中で、お互いに新しい気づきがある。又、看護職の就職につながる事も期待する。</li> <li>・在宅看護の良さを素直に学生さんに感じて頂けていることに喜びを感じています。就職先のひとつに訪問看護ステーションが挙がり、希望者が増えてくれればと思いながら関わっています。</li> <li>・後進の育成のためには良かったと思う。普段どんな仕事をしているか理解されにくいと将来、希望する人も少なくなるので。</li> </ul> <p>&lt;医療と福祉の連携の一助&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療と福祉の連携の一助となっていると思います。</li> </ul> <p>&lt;後進の育成に努める責務&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後進の育成に努めることは責務である。実習生の受け入れることで相談援助職自身の振り返りの機会となっている。</li> </ul>
<p>学生にとってのメリット</p>	<p>&lt;学生への貢献&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の業務の見直しにもなる。自分自身が学生の時に、実習させていただいたので、若い学生さんへ貢献できるのは嬉しいです。</li> </ul> <p>&lt;在宅看護、訪問看護への興味・関心の刺激&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟と訪看の相違について理解されて在宅での看護の在り方、必要性についてなど学んでくれ、訪問看護に興味持ってくれる様になってほしい</li> <li>・在宅看護の良さを素直に学生さんに感じて頂けていることに喜びを感じています。就職先のひとつに訪問看護ステーションが挙がり、希望者が増えてくれればと思いながら関わっています。</li> </ul> <p>&lt;施設に興味関心を持ってもらう機会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護老人保健施設には、若い看護師が少ないため、実習生を受け入れることで、老健施設に興味を持って頂ける機会となっている。</li> </ul> <p>&lt;精神障害者の地域生活に関する理解の促進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害者の地域生活、生活支援について知ってもらえる「気づき」がある。医療の現場にも福祉の視点が必要なことを知ってもらえる。</li> <li>・精神科を希望している学生さんは少ない為、精神障害を持った人たちが、どのように地域で生活しているのかを、知ってもらえるのにはいい機会だと思っている。</li> <li>・障害特性上（精神障害）医療との連携は欠かすことができず、医療従事者に地域での支援のあり方を知ってもらう機会にもなっているから。</li> </ul> <p>&lt;退院支援に関する理解の促進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・退院支援の理解ができる学生が増えていると実感できるため。</li> </ul> <p>&lt;地域生活・療養に関する理解の促進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色々、難しい点はありますが、病院から退院して、自宅で生活することが少しでも、学生に理解してもらえば、利用者さんの退院指導や、在宅で支援するサービス事業者との連携にも役立つのではないかと考えているから。</li> <li>・学生が地域包括の役割を知り、学習したことで、今後現場に出た時に高齢者の在宅復帰がスムーズになると思われるので。</li> </ul>

学生にとつてのメリット（つづき）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターにおける保健師の役割と実際の活動について、話をしたことにより、改めて責任や役割を認識する機会となった。医療と介護の連携の難しさを伝えたことにより、今後、臨床にもどった時に在宅の視点をもったケアやスムーズな退院支援が大切だということに気づいてもらえた。小さなことだが、今後の人材育成につながると期待でき、こちらも励みになる。</li> </ul> <p>&lt;病院医療以外の部分への興味関心の刺激&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学生に医療だけではない部分も頭に入れてほしい。ということ伝える機会が持てた。</li> <li>・学生の反応が良く、病院以外の施設を知ってもらえる。</li> </ul> <p>&lt;連携の大切さの学び&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉職が多い現場への看護職を目指す実習生の受け入れは当方にとって、連携の大切さを学び、今後活かせる考える。</li> </ul>
------------------	--

表 46 看護学生の実習を受け入れて困ったかの自由記述のまとめ

「困っている」もしくは「まあ困っている」と回答した事業所の自由記述		
事業所・利用者に関する記述	<p>&lt;職員の多忙さ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・忙しくて、仕事に集中できないことがある。</li> </ul>	
	<p>&lt;通常業務との兼務の負担&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習担当者は、通常業務と併行しての実習なので、負担が大きい。</li> </ul>	
	<p>&lt;実習生に対する職員の少なさ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問先や窓口来所相談者がいない時、指導者 1 名に対し、学生が 3 名以上の時(訪問の引率に困る)</li> <li>・指導担当看護師が 1 名に対して、2 名以上の学生が同日程で入るため。</li> <li>・学生数が多く、十分な対応できない時ある。</li> <li>・スタッフの人員不足で指導だけにならない、互いに負担や困難を感じてしまっていると思う。</li> <li>・スタッフが足りず、専任で指導したくても、業務を兼任しなければならないので、実習期間中は残業が増える。実習環境がハード面で提供困難なのに、教育機関から求められる。業務を兼任して指導することが殆どのため、学生の成績をつけるのが負担であり、難しい。</li> <li>・1 回に施設に実習くる人数が多い。2/3 程度になると指導もしやすい。(スケジュール的に難しいようであるが)</li> </ul>	
	<p>&lt;訪問日程調整の困難&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同行できず、事務所待機時間が長くなってしまった。</li> </ul>	
	<p>&lt;利用者選定の困難&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同行訪問を受け入れる利用者が少ない。電話で同意を求めただけで苦情が寄せられてしまった。</li> <li>・学生を受け入れてくれる利用者が減少。</li> </ul>	
	<p>&lt;学生同行が通常業務に与える影響&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生と同行すると、移動にもケアにも時間がかかり、次の訪問が遅れる。</li> </ul>	
	<p>&lt;施設設備の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車置き場がない。</li> <li>・ハード面整備、カンファレンスルーム、休憩、更衣室など</li> </ul>	
	<p>&lt;指導者自体の高齢化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者の年齢が高くなり、実習生との関わりが難しい場合がある。</li> </ul>	
	実習の方法や内容に関する記述	<p>&lt;実習で教えるべき内容が不明瞭&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅の介護支援事業所で、何を教えてゆけば良いか、見えない。実習生にとって必要なかと疑問がある為。</li> </ul>
		<p>&lt;提供困難な内容を要望される&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフが足りず、専任で指導したくても、業務を兼任しなければならないので、実習期間中は残業が増える。実習環境がハード面で提供困難なのに、教育機関から求められる。業務を兼任して指導することが殆どのため、学生の成績をつけるのが負担であり、難しい。</li> </ul>

<学生の取り組み姿勢の問題>

- ・実習内容以前に態度・姿勢・意欲の低下を感じる。
- ・学校との書類のやり取りが面倒。人として質の悪い生徒もいる。やる気がない生徒にイラッとする。
- ・コミュニケーション能力の低い学生が多い。消極的な学生が多い印象。
- ・実習に臨む姿勢が様々であり、利用者さんに対して不快な思いをさせてしまうことがある。また、メンタル面で問題を抱えている学生が年々増えており、実習教員と連絡を取りながら、訪問先等も調整し、かなり配慮しなければならない状況となっている。
- ・校内でも態度が悪いと言われている実習生をつれてこられ、訪問先で看護師がとても気を遣う。
- ・学生同士でまとまって行動する所。
- ・学生の理解度が不明。(質問がないため)字が小さく、提出書類が読みにくい。
- ・何を学びたいのか不明。目標が抽象的。具体的目標を掲げている場合でも、施設で提供不可の内容となっている。
- ・スタッフや利用者とのコミュニケーションが若干、未熟な学生が多い。

<学校、学生による力量の差>

- ・学校・学生により、力量に大きな差がある。カリキュラムが異なり、記録指導にも大きく差がある。負担感がある。

<実習元の教育機関とのやりとり>

- ・学校との書類のやり取りが面倒。人として質の悪い生徒もいる。やる気がない生徒にイラッとする。
- ・当日にプリント等に目を通してほしいと言う学校。

<実習元の教員の態度の問題>

- ・現在は実習の受け入れを中止した学校の教務がかなり非常識で、実習時間を超えてステーションに入りびたっていた。

「どちらともいえない」と回答した事業所の自由記述

事業所・利用者に関する記述

<通常業務との兼務の負担>

- ・本業に集中できない。(学生が来ている間)

<実習が通常業務に与える影響>

- ・神経は使う。スケジュールに余裕が必要となり、効率が悪い。スタッフは記録の確認、指導をしていると、他の仕事が遅くなり、残業になることもある。
- ・最近アレルギーがある学生が多くペットだけでなく、掃除などが行き届いていない家庭もあるので、同行訪問時に、行く所が制限される。実習時期を指定されるので、請求事務と重なったり、他の実習校と重なっても、調整ができない時。
- ・限られた職員体制で行っているため、他の業務を行う時間が制限される。
- ・学生を同行させるため適切なケースを選び、予定を立てるため、業務に支障が出ることもある。

<利用者選定の困難>

- ・利用者の選定で困ることがある。家族に承諾を得られないことがある。(電話が繋がらない、面会に来ない等)
- ・同行訪問利用者の選定がむずかしい。(すべての利用者が学生の同行を受け入れているわけではないため)自転車での事故予防に配慮しながらの同行はスタッフに負担もかかる。
- ・相談業務に同行・同席が、内容により、簡単にはできないので、体験できることに限りがある。
- ・学生を同席させることが難しいケースや場面もあり、その時の対処が困ることがある。

<一部の利用者への負担増>

訪問対象に限りがあり、どうしても一部の利用者の負担となってしまう。記録物を見るのが時間外になってしまう。

<計画通りの実習ができない>

現場の仕事のため、計画通りの実習ができない時もある。

<指導者が福祉職であることによる不安>

指導者が福祉職なので、どうなのか不安。

学生・教育機関側に関する記述

<学生の成育歴・家庭環境の違い>

- ・在宅の話をする上で学生の各家庭環境の違いを感じる。「調理をしたことがない。母もしません。」「石けんで手を洗ったことはありません。」(ポンプタイプの洗剤を使うため)「祖父母との関わりがありません。」など。
- ・最近アレルギーがある学生が多くペットだけでなく、掃除などが行き届いていない家庭もあるので、同行訪問時に、行く所が制限される。実習時期を指定されるので、請求事務と重なったり、他の実習校と重なっても、調整ができない時。

<学生の接し方の難しさ>

- ・学生の扱いが厳しい。

<学生の取り組み姿勢の問題>

- ・利用者宅へ同行訪問しても、利用者に対して、直接伺いたいこともないということがある。実習に対し、積極的でない感じがする。
- ・相手（障害）を知ることが実習の達成にしている方も少なくない。
- ・態度や言葉遣いなど。
- ・事前学習の取り組み度や、在宅看護の領域への興味関心により、目的の達成度について変化あり。
- ・困ったことは殆どないが、学生がどこを学びたいのか、理解できない時や、忙しい時に学生の記録に目を通さなければならない時。
- ・学生のあいさつや、態度について利用者から、苦情を受けることがある。
- ・ベテランの看護師としては、自分達がやってきた学生時代とのギャップに苦しんでしまうことはあり、それを今の学生は...となだめるのが大変な面はある。
- ・たまに、言葉づかいがフレンドリーすぎたり、軽作業を安易に見てミスをする学生さんがいるくらい。
- ・きちんと挨拶ができる学生さんなら困らない。

<体調面など学生のトラブル>

- ・学生が体調不良になってしまった時、学生が道に迷い、訪問に遅刻してしまった時。

<実習元の教員との連携への不満>

- ・学校の先生が、なかなか来ないこと。コミュニケーションが取りにくい。

<p>事業所・利用者側に関する記述</p>	<p>&lt;施設設備の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のスペースが狭く、申し訳ない。</li> </ul> <p>&lt;利用者選定の困難&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たまに患者さんの前で不適切な言葉を発することがあるが、それ以外であまり困っていない。訪問を受け入れてくれる患者さんがいない時は困った。</li> </ul> <p>&lt;利用者への負担の増加&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習人数が多かったり、毎週続けるの実習をなると、利用者の負担が多くなるため、難しいと感じている。重症者が多い為、担当看護師に本人や家族が深い心情を表出できないことがあった。</li> <li>・実習に同意いただいている利用者さんが少なく、実習が続いた時に、同じ利用者さん(同じ訪問看護師)に負担が偏る。</li> </ul>
<p>学生・教育機関側に関する記述</p>	<p>&lt;学生の取り組み姿勢の問題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数で来て、控え室が占領されがち。</li> <li>・同行訪問しているが、特に問題になる様な行動もない。あっても小さな事項である為。人格的に変わった方もいるが、短期間なのであまり気にならない。グループ内で仲が悪く、いっしょの実習時間にしないでとの申し出は少しこまった。</li> <li>・短い期間の実習でも、利用者さんに関心をよせる学生と、関心のない学生とでは、実習場の雰囲気も変わってしまうので、たまに困ることがある。</li> <li>・身だしなみの(服装や持ち物)が不相応な場合があります。</li> <li>・時々、実習に参加したくなかったのか、時間だけ過ごしている学生がいる。短い実習期間なので学生自身の目的を、しっかり持って、実習に望んでほしい。</li> <li>・学生の実習意欲の差が大きく、意欲に乏しい場合は職員の指示をただこなすだけになっている。</li> <li>・以前来られた学生でロングスカートを着たり、着脱しにくいひも付き靴で困ったことがある。目的をもってこない学生、意欲のない学生は困る。</li> <li>・あまりにも計画と患者に必要な計画にずれがある子がいたとき</li> <li>・ステーションは移動に自転車を使っているが、たまに自転車に慣れていない学生さんが、来られると移動に非常に時間がかかってしまう。上手くバイタルをとれないため、訪問へ行く前に血圧測定などスタッフと学生間で練習してから行くことが、時々ある。(病棟・学部内でもう少し練習をして来て頂けると有り難い)</li> <li>・全体的にはよいが、毎年1組3地域のリーダー等に失礼な事をする学生が出て、後々おわび等フォローが困る。(学生は反省していない)</li> <li>・様々な学生がいるので同行訪問が難しいお宅もある。調整に毎回苦勞する。</li> </ul> <p>&lt;実習元の教員との連携への不満&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初(H23年)は、教員の方が、包括の仕事への理解があまりなく、教員からの質問が、現場の指導者に多く寄せられている状況で、実習要領も粗であったが、H25年度以降は、内容も充実して来た。</li> </ul> <p>&lt;体調面など学生のトラブル&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体調が悪そうな学生さんが来た時、訪問予定したが、ケースを減らすなど、配慮して訪問。</li> </ul> <p>&lt;実習期間が重なり受け入れ困難&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習期間が、どの学校も同じ期間なので、受け入れが困難な事が多い。</li> </ul>

表 47 実習で学んでほしいと思っていたことが伝えられたかの回答でその他の判断理由の自由記述

「はい」と判断した理由
<ul style="list-style-type: none"><li>・記録の提出から</li><li>・実習記録から</li><li>・実習後のまとめの提出により</li><li>・日誌や手紙を見て(実習生からの)</li><li>・表面上は学んだと考えられる学生が多い</li><li>・区の担当者からの感謝の言葉あり</li></ul>
「どちらでもない」と判断した理由
<ul style="list-style-type: none"><li>・どのくらい学生に響いているのか、測れない</li><li>・学生さん1人1人によって、違いますので</li><li>・学生のレベルによっても、多くを話さないこともある</li><li>・学生自身の学びたい、興味の有無により、多少の違いはあると考える為</li><li>・実習生の参加の姿勢・理解度等によるため</li><li>・一部については伝えられた</li><li>・日々の実習で学んだ事がCFに出て来ない事もある</li><li>・本人に確認していない</li></ul>

表 48 施設内・事業所内でのスタッフの実習への協力について良かったことの自由記述のまとめ

---

実習内容への協力でも良かったこと

---

<各職員による実習プログラムの準備>

- ・学生が実習にスムーズに入れるように、スタッフがプログラムを創意工夫の上準備してくれている。

<各職種によるレクチャー>

- ・包括的支援事業について、看護師だけでなく、社会福祉士、主任ケアマネージャーより、訪問等の実習前に各1時間程度のレクチャーを行っている。実習の目的を再学習し、カンファレンスや記録で確認することができる。
- ・分担して、各自の職種の説明をしてもらったのが良かった。
- ・丁寧に説明、指導している。教える事でスタッフも理解が深まると思う。
- ・丁寧に時間を割いて、説明してくれている。
- ・他の職種から話をしてもらうことで多職種連携がより具体的に理解できたと思う。
- ・看護以外の職種が各自の役割を説明してくれる。関わりをもってくれる。
- ・皆心良く担当し、分担している専門業務の説明を下さるので、一人ですべてを説明しなくて済む。
- ・それぞれの専門分野のレクチャーをしてくれる。
- ・各々の専門職ならではの経験を学生に話してくれたこと。指導者の業務負担を軽減してくれるなどの配慮があった時。

<患者に関する情報提供>

- ・患者の側面情報を提供してくれた。

<視点の異なる指導>

- ・それぞれの職種の視点で、指導するので、良いのではと思います。

<実習自体の分担>

- ・全スタッフが割当の中で、分担し、負担が偏らないよう、協力的に行っている。
- ・業務分担し、負担してくれる、
- ・看護職は学生の教育に対してのモチベーションが高いのでルーティンを負担してくれることが多い。
- ・みんな協力的

<他職員による積極的なサポート>

- ・主任看護師が積極的に関わってくれて助かった。
- ・社会福祉士で包括業務5年以上の2人に協力してもらっている。男性職員2人が係わることで活気がある。
- ・実習担当になっているスタッフが、自ら色々と意見を出し合って、実習環境を整えようとしている。

<指導者の業務負担の軽減>

- ・各々の専門職ならではの経験を学生に話してくれたこと。指導者の業務負担を軽減してくれるなどの配慮があった時。

<訪問日程の調整>

- ・訪問調整(指導や反省会にあたる時間を作っていただいた)同行可能な利用者の一覧表の更新。
- ・訪問スケジュールを決める際、協力できる体制が整っている。
- ・担当看護師が訪問患者がいない間など他の患者へ連れて行ってくれたり、他の意見を出したりしてくれる。
- ・自分に訪問ケースがない時に、訪問に学生さんで行ってくれるなど。